

平成 30 年 9 月 3 日

学校法人 実学舎
埼玉コンピュータ&医療事務専門学校
学校関係者評価委員会

平成 29 年度についての学校関係者評価委員会 報告書

学校関係者評価委員会を平成 30 年 8 月 31 日、本校にて実施しました。その結果を下記のとおりご報告いたします。

記

1. 開催日時

・平成 30 年 8 月 31 日（金） 18 時 00 分～19 時 00 分

2. 場所

・本校 302 教室

3. 出席委員と本校からの出席者

出席委員：

大野嘉之（株式会社ソフタス 人事部 部長）

斉藤等（株式会社アイネット 管理部 部長）

小林均（株式会社太洋社印刷所 総務部 部長）

榊谷都由（イシイ株式会社 営業部 部長）

山下俊一郎（あさひメディカルグループ 事務長）

鳥山康夫（教育関係者）

福田真奈美（保護者）

金子由紀子（保護者）

小河原昌希（卒業生）

小野寺美音（卒業生）

本校からの出席者：

前川一也（校長）、琴野実（キャリア支援センター長）、大木健一（教務部長代理）、

深野敦史（教務係長）、杉浦真一（総務・広報課長）

4. 学校関係者評価委員会次第

① 開会

- ② 校長挨拶
- ③ 議長選任
- ④ 自己点検・評価結果の説明（校長）
- ⑤ 委員による評価および意見交換
- ⑥ 閉会

5. 自己点検・評価結果の説明（校長）

別紙「平成 29 年度についての学校自己点検・評価報告書」をもとに、その結果について説明しました。

6. 委員による評価および意見

別紙「平成 29 年度についての学校自己点検・評価報告書」をもとに評価を行い、その内容は概ね良好であると結論づけました。なお、委員による評価および意見は下記のとおりです。

●委員による評価

※評価は 5 段階（未達成、不十分、普通、ほぼ達成、達成）で実施しています。

1.教育理念・目的・育成人材像等		評価
評価項目	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	達成
	1-2 学校の特色はなにか	達成
	1-3 学校の将来構想を抱いているか	達成
2.学校運営		
評価項目	2-4 運営方針は定められているか	達成
	2-5 事業計画は定められているか	達成
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	達成
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	達成
	2-8 意思決定システムは確立されているか	達成
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	達成
3.教育活動		

評 価 項 目	3-10 各教科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニ ー	達成
	3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構築する知識、技術、人間性等は、業 界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到 達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	達成
	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	達成
	3-13 学科の各教科は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	達成
	3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか	達成
	3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保して いるか	達成
	3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	達成
	3-17 資格取得の指導体制はあるか	達成
4.教育成果		
評 価 項 目	4-18 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られて いるか	達成
	4-19 資格取得率の向上が図られているか	達成
	4-20 退学率の低減が図られているか	達成
	4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	達成
5.学生支援		
評 価 項 目	5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	達成
	5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	達成
	5-24 学生の経済的側面に対する支援が全面的に整備され、有効に機能して いるか	達成
	5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	達成
	5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	普通

目	5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	普通
	5-28 保護者と適切に連携しているか	達成
	5-29 卒業生への支援体制はあるか	普通
6.教育環境		
評価項目	6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備できているか	ほぼ達成
	6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整	普通
	6-32 防災に対する体制は整備されているか	ほぼ達成
7.学生の募集と受け入れ		
評価項目	7-33 学生募集活動は、適正に行われているか	達成
	7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	達成
	7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	達成
	7-36 学納金は妥当なものとなっているか	達成
8.財務		
評価項目	8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	ほぼ達成
	8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	達成
	8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか	達成
	8-40 財務情報公開の体制整備はできているか	達成
9.法令等の遵守		
評価項目	9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	達成
	9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	達成
	9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	達成
	9-44 自己点検・自己評価結果を公開しているか	達成

10.社会貢献		
評価項目	10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	普通
	10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	普通

●委員からの意見

- ・ 6-32 防災に対する体制は、災害が多く発生しており強化が必要である。学生への連絡網は整備されているのか。
- ・ 学生への連絡方法として、ホームページへの掲載や担任からの個別連絡を実施している。また、場所によって状況が異なるため、学生本人が安全を確保するよう判断することを徹底している。(本校)
- ・ 最近の新入社員は電話対応ができないなど、コミュニケーション能力が不足している。10-46 学生のボランティア活動の奨励や支援は、企業でも力を入れており強化が必能ではないか。また、学生数が減少している環境の中で生き残るための独自性の検討も必要ではないか。
- ・ 4-19 資格取得率の向上は、数字が示されてよいが、グラフにすると分かり易くなると思う。AIは使うためにも技術が必要であり、AIの開発よりもどう使うかを教育したらよいのではないか。
- ・ 4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握について、現在の状況はどうか。企業としても必要であれば協力したい。
- ・ 一部の企業に本校卒業生の状況を聞いたり、葉書を出して離職状況を把握している。(本校)
- ・ 3-16 成績評価・単位認定の基準について、コミュニケーション能力も対象になっているのか。
- ・ 試験の点数だけではなく、問題解決能力やコミュニケーション能力の評価も必要だと考えている。(本校)
- ・ システム開発グループ演習では、評価の一部にコミュニケーション能力も入れている。なお、グループ演習のリーダーに任命したところ、コミュニケーション能力が著しく向上したこともあった。(本校)
- ・ 現在大学の講座を受けているが、そこでは発言回数も評価に入れている。コミュニケーション能力を向上させる方法として有効ではないか。(本校)
- ・ 6-32 防災に対する体制は、学生が学校にいるときに災害が発生し、学生が帰宅できない状況の検討も必要である。東日本大震災時のパレスホテルの対応など、近辺の情報収集も必要である。

- ・ 4-19 資格取得率の向上は、昨年度の数値も出して今年度と比較できるようにするとよいのではないか。この報告書の内容について、職員で共有する必要があるが、どのように周知徹底しているのか。
- ・ 毎年 12 月に実施している次年度審議にて、周知徹底し次年度の計画に反映している。
(本校)
- ・ 教師の指導において、学生を褒めて評価することは大切である。
- ・ 評価する際に、5.学生支援や 6-32 防災などは、学生と相談して学生の声を反映させるとよいのではないか。
- ・ 10-46 学生のボランティア活動の奨励や支援は、参加したレポートを提出させて、教科の評価に入れるとよいのではないか。
- ・ 企業実習の実施は、学生が入社前に企業を知ることができるのに加え、離職率が減少し企業にとっても有効である。また、本校のホームページに卒業後の仕事分かるページを掲載したことはよい。
- ・ 上記の卒業後の仕事のページが PDF になっており、スマホで利用するには不便である。
- ・ 5-22 就職・進学指導に関する体制について、学生に合う会社を受験するよう指導して離職率を下げたい。
- ・ 現在病院実習中だが、楽しそうにしている。本校の先生に世話になってよかったと思う。

以上